

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		令和(元)年度 Visual Timerを用いた幼児のしたく行動の促進
授業について	教科名等	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input checked="" type="checkbox"/> その他(生活・身辺自立)
	単元・題材名	
	授業の目標	自発的に登園後の朝のしたくや降園前の帰りのしたくを設定された時間で完了すること
	学力の3要素	<input type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input checked="" type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input checked="" type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (幼稚園年少・年中) (5)人 インクルーシブ教育を行う幼稚園
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input checked="" type="checkbox"/> LD(学習障害) <input checked="" type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input checked="" type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input checked="" type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input checked="" type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input checked="" type="checkbox"/> その他 もちものを決められた場所に置くことや、必要なものをしまうこと、服の着替えのスキルや手順は獲得されているが、すべての手順を完了するまでに時間がかかる
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input checked="" type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input checked="" type="checkbox"/> D1実態把握支援) ・残り時間が色で示されるタイマーを用いて、時間を幼児にわかるように示す。 ・幼児期から時間を意識して、自発的にしたくをする習慣を形成する。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	<input type="checkbox"/> タブレット(iPad) <input type="checkbox"/> VisualTimer(アプリ「絵カードタイマー」) 
授業展開	授業展開・支援の手立て	ベースライン:通常の朝のしたく、帰りのしたくの際に、対象児には知らせず所要時間を計測した。 朝のしたくは、登園して園舎への入室時から、着替えの場所のマットを片付け終わるまで、帰りのしたくは教職員のしたく開始の指示からマットを片付け終わるまでの所要時間を計測した。 介入:対象児それぞれのベースラインの測定値から、50%以上成功する時間で、対象児の写真のついたVisual Timerをセットし、着がえ場所に掲示した。制限時間内にしたくが終了した場合は、それぞれの興味にあわせて保護者と相談して強化子を選定し(B子はシールと菓子、C郎は菓子、キャラクターカード、戦隊物の絵本を5分見る、D太はキャラクターカード、E美はキャラクターシール、F男は菓子)、対象児に与えた。 制限時間内にしたくが完了しなかった際には、タイマーに「ざんねん」の文字が表示された。制限時間内での成功が安定したら、直近の10日間の記録に基づいて設定時間を短縮した。 
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	対象児のベースラインおよび介入期の所要時間にもとづいて、時間をVisual Timerで示し、基準変更を行うことで、定型発達児にも発達障害児においても、したく行動が促進された。 したく行動は、子どもの発達段階によって、現段階で求める基準が異なる。支援においては、「〇分で着がえるべき」という画一的な基準を設けるのではなく、それぞれの子どもの現在の遂行レベルをアセスメントし(ベースライン)、段階的に各自に設けた目標のステップアップを図ることが有効であった。